

第 1 3 回四国DMA T連絡協議会 (DMA T実働訓練)

1 訓練概要

(1) 日時、場所

日時：平成 26 年 2 月 22 日 (土) 13:00~16:00 場所：四万十町内

(2) 目的

様々な被災状況を想定したDMA T活動訓練を通して、高幡保健医療圏における災害医療提供体制（災害拠点病院、救護病院、医療救護所、域内医療搬送、広域医療搬送（仮想）、DMA T、総合防災拠点の活用等）を検証し、今後の医療救護体制の見直しや防災対策につなげる。

(3) 参加機関

行政機関：徳島県、香川県、愛媛県、高知県、四万十町、須崎市、中土佐町、高幡消防組合
消防本部四万十清流消防署、西分署、厚生労働省DMA T事務局

医療機関：くぼかわ病院（救護病院）、須崎くろしお病院（災害拠点病院）、その他災害医療対策高幡支部管内の医療機関

DMA T：徳島県DMA T、香川県DMA T、愛媛県DMA T、高知県DMA T

(32 病院、36 チーム、167 名)

自衛隊：陸上自衛隊 14 旅団 (約 15 名)

ヘリコプター：自衛隊航空機 (UH-1)、災害調査ヘリ (朝日航洋) 高知県消防防災ヘリ、高知県ドクターヘリ

その他の機関：高岡郡医師会、災害医療対策高幡支部会議、自主防災組織、株式会社NTTデータ、伊藤忠商事株式会社、日本産業・医療ガス協会四国地域本部医療ガス部門高知県支部

2 訓練実施内容

(1) DMA Tを主体とした訓練

①DMA T調整本部（四万十町役場）、活動拠点本部（四万十緑林公園）の設置・運営

②SCU本部（窪川運動場）の設置・運営

③災害拠点病院及び救護病院等への病院支援活動

④被災地内医療機関の被災情報の収集及びEMISへの集約

⑤医療救護所等（大正診療所、十和診療所）からのヘリによる域内医療搬送

⑥災害拠点病院及び救護病院等の院内訓練、DMA T受入訓練、SCUまでの患者搬送

(2) 行政（県・四万十町）を主体とした訓練

①県災害医療対策本部、県災害医療対策高幡支部、四万十町災害対策本部の設置・運営

②医療救護所（窪川小学校）の設置・運営

③医療救護所及びくぼかわ病院からの患者搬送（陸路搬送）

3 評価と今後の課題

- ・各DMAT本部の体制をEMIS（広域災害・救急医療情報システム）にアップするまでに一定の時間を要した。

⇒・全DMATがEMISの操作方法を習熟し、各持ち場で行うべき入力項目等について理解しておくことが必要。

- ・DMAT調整本部では、業務調整員（ロジスティックスを担う者）と衛星携帯電話が、活動拠点本部では衛星携帯電話が不足気味であり、情報伝達が遅延した。

⇒・全DMATが携行品に衛星携帯電話は必須であることを再認識するとともに、参集したDMATは本部活動を担当するDMATに携行した衛星携帯電話を貸与するなど、本部活動に必要な衛星携帯電話数の確保に努めることが必要。

*参考 必要な数＝受信専用5台、発信専用5台、計10台

- ・業務調整員については、ホワイトボードへの記録、パソコンによる時系列の作成、EMIS確認、電話送信、電話受信等のそれぞれの役割に対して1名以上が必要。

*衛星携帯電話以外にも、パソコンも多数必要。また、ホワイトボードに書かれた組織図等をデータ化し、打ち出す必要があるため、プリンターも必要。

*これらは県医療本部、県医療支部、市町村本部にも当てはまる。

- ・情報伝達の要請・応諾について、医療救護所への医療従事者（DMAT）の派遣要請が四万十町から県医療支部を通じて県医療本部へあがってきたが、それらの要請事項についてDMAT調整本部を通じてDMAT活動拠点本部に報告をしたが、調整結果の報告がなかったこともあり、四万十町への調整結果報告が遅くなり、医療救護所はDMATが来るのか来ないのか分からない状態が長く続いた。また、くぼかわ病院へのDMATの派遣は、くぼかわ病院が医療従事者（DMAT）の派遣要請をする前に行われた。（今回の訓練では、くぼかわ病院からの派遣要請を受けて、DMATが支援に向かうシナリオとしていた。）

⇒・情報の流れについて、要請事項について調整を行った場合は、必ず応諾することを徹底することが必要。また、県外からの支援者には高知県の災害時の情報の流れ（市町村⇔県医療支部⇔県医療本部）が、DMATの情報の流れ（病院指揮所等⇔活動拠点本部⇔調整本部）とは別にあることを理解してもらうことが、スムーズな情報伝達につながる。

- ・事前にコントローラーと十分な打合せを行い、シナリオの共有や、各ミッションにおける想定の部分と今回の訓練で行う部分の十分な周知が必要。

- ・訓練を企画・調整するうえで、関係者全員との顔合わせを含めた事前の打合せが開催できなかった。

⇒・特にヘリ運航に関する部分では、事前の綿密な調整と地上での誘導、患者引き継ぎ等に関する打合せが必要。